

水道施設が語る100年

にこうすいげんち 二河水源地



近代水道百選 [昭和60(1985)年5月]
国登録有形文化財 [平成10(1998)年10月]
日本遺産 [平成28(2016)年4月]

- 所在地 呉市大字莊山田村東二河平甲
- 完成 明治22(1889)年9月
- 概要 明治19年、呉港が第2海軍区鎮守府に決定されると、同21年に呉鎮守府水道の建設に着工し、同22年に竣工しました。
二河水源地は、二河川男滝の上流左岸に設けられ、一塊の巨大な自然石をくり抜いて造られており、流出側の上部には、「呉鎮守府水道」と刻まれた標石を置き、アーチ型の開口部両脇には柱型をあしらった丁寧な造りとなっています。
現在は、工業用水道事業の水源として利用しており、建設から一世紀を超えた今も、この水源の恵みを受け続けています。
我が国初期の水道施設の一つとして貴重であることから、平成10年10月に「国登録有形文化財」に登録されました。

- 構造等
 - ・一日最大取水量 12,000立方メートル
 - ・流入側：幅3.10メートル・高さ2.80メートル
 - ・流出側：幅3.28メートル・高さ4.76メートル

みながすいげんち 三永水源地



近代水道百選 [昭和60(1985)年5月]
国登録有形文化財 [平成11(1999)年7月]

- 所在地 東広島市西条町下三永
- 完成 昭和18(1943)年2月
- 概要 昭和年代となり、軍港施設の拡張に伴い市勢の発展は、年を追うごとに盛んとなり、昭和3年には、吉浦町、警固屋町、阿賀町を合併したため市域が拡大し、さらに幾度かの干ばつで毎年のように深刻な水不足を経験しました。
これを打開するためには、呉市独自での水源拡張が必要であることから、候補地の選定などをめぐり、当時の市議会で激しく議論されました。この結果、昭和13年、賀茂郡下三永村に三永水源地を築造し、ここから26キロメートルの送水管によって、平原浄水場に送水する計画に決定しました。
昭和13年11月に起工式が行われ、戦時下の物資不足、人手不足にもかかわらず、昭和18年2月6日に平原浄水場への通水式が挙行されました。
現在は、工業用水道の施設として稼動しています。

- 構造等
 - ・貯水容量 2,640,000立方メートル
 - ・集水面積 68.3平方キロメートル
 - ・一日最大取水量 35,000立方メートル
 - ・堰堤：重力式コンクリート造り
 - ・堤長100メートル・幅3.5メートル・堤高14メートル